

2022年度第2回理事会(定例)



世界の強豪 16 チームが参戦している「FIVB バレーボールネーションズリーグ 2022」が開催中です。男女日本代表チームは熱い戦いを繰り広げており、その模様はBS-TBS（一部 TBS・関東ローカル）で放送されておりますので、引き続き応援よろしくお願いします。

2022年6月2日に開催された2022年度第2回理事会(定例)の概要をお知らせします。

<決議事項>

●第12期（2021年度）事業報告について

今年度は、2019年度末に発生した新型コロナウイルスの感染拡大のなかで2020オリンピック・パラリンピック東京大会（以下「東京2020大会」という）が無観客で行われたが、ほとんどの大会が中止または大幅な制限を受けた中で、すべてのカテゴリーの日本代表チームが活躍の場を失うという2年続けての厳しい一年となった。

その中でビーチバレーボールの選手登録のミスにからむ隠ぺいが発覚し、会長、事務局長がそろって辞任するという未曾有の事態となった。3月22日に川合俊一氏が会長に就任し、バレーボールへの信頼回復が急務となった。

(1) 今年のトピックス

- ① 東京2020大会が無観客で開催され、男子は1992年のバルセロナ大会以来29年ぶりに決勝トーナメントに進出し7位となり、女子は1996年アトランタ大会以来25年ぶりの予選敗退の10位となった。また、ビーチバレーボールは男女ともに予選敗退となった。
- ② 第4回バレーボールネーションズリーグ（VNL）がイタリアで開催され、男子は11位、女子はVNLとしては過去最高の4位となった。
- ③ 東京2020大会の前哨戦として5月に日本代表国際親善試合～東京チャレンジ2021～を男女とも中国を迎えておこなった。

- ④ 9月には第21回アジア男子バレーボール選手権大会を千葉県で開催し2位となった。
- ⑤ タイのプーケットで開催された「ビーチバレーボールアジア選手権」で石井美樹・溝江明香のペアが日本選手として2001年以来の決勝進出を果たし準優勝となった。
- ⑥ 天皇杯・皇后杯は開催できたが、ほとんどの国内大会が中止に追い込まれた。
- ⑦ 緊急事態宣言等の発令などにより、事務局の閉鎖、50%在宅などを長期間にわたって実施した。

(2) 決算について

オリンピックの延期により今年度も引き続き強化に注力する赤字予算を計上したが、継続するコロナ禍のもと、多くの事業で影響を受け予算通りに実施できなかった。反面、収入面ではオリンピック開催年ということもあり大きく落ち込むこともなく順調に推移した結果、黒字決算となった。

収入面では、当初予算1,572百万円から463百万円増の2,035百万円となり、支出面では当初予算2,045百万円から264百万円減の1,781百万円となった。税引き後の最終利益は230百万円となった。

※第12期(2021年度)事業報告の詳細につきましては、JVA ホームページに掲載いたしましたので、ご参照願います。[2021-2022workreport.pdf \(jva.or.jp\)](https://www.jva.or.jp/2021-2022workreport.pdf)

●第12期(2021年度)決算について

【監査報告】

公益財団法人日本バレーボール協会の第12期(2021年4月1日~2022年3月31日)の業務及び財産の状況等について監査したところ、適正かつ公正に処理されており、その内容が事実であることを認める。また、理事の職務執行に関する不正の行為または法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められない。

ただし、太陽監査法人からその他の報告事項として、例年のことではあるが、公益目的事業における収支相償についての意見、指摘があった。一昨年も昨年も赤字予算を組んでいたなかで利益が出ている点について、コロナ禍による事業への影響のためすぐに指摘される事項にならないとしても、きちんと内閣府に説明できるような状況を作ること、中長期的な収支相償を目指しながら今後の事業計画の正確性を精査して欲しいとのこと。

【決算の概要説明】

決算書自体は当年度と前年度を比較する形になっているが、前年度は厳しいコロナ禍で収入も支出も少ない。その実績と比較してもあまり意味がないため、今年度の予算と決算の対比表の形で説明している。参考として昨年度決算額も併記している。

全体として、収入は「予算15億円のところ決算は20億円となり、4億6,300万円上回った。約3割の増収となった」。支出は「20億円の予算だったが、事業をあまり実施できず17億8,000万円程度、2億6,300万円弱下回り、1割強の減少となった。」あわせて予算より7億強の差が出た。費用の方は科目ごとに記載してもわかりにくいので、活動に直結する事業ごとに記載した。

※第12期(2021年度)決算の詳細につきましては、JVA ホームページに掲載致しましたので、ご参照願います。[2021-2022financial_statements.pdf \(jva.or.jp\)](https://www.jva.or.jp/2021-2022financial_statements.pdf)

【公益認定法の3基準について】

公益認定法では、公益法人として満たさなければいけない以下の3基準を決めており、この3基準すべてを満たす必要があるが、以下のとおり3基準の状況を報告する。

1. 公益目的事業費率が50%以上であること

→公益法人として公益事業が主目的であるべきという趣旨

公益目的事業費率は 88.86%（2020 年度は 79.82%）であり基準を満たしている。

2. 公益目的事業が収支相償であること（公益事業が黒字ではないこと）

→公益のための事業であるが、利益が出ることもあるが、その場合にはその利益は公益のために使用しなければいけないという趣旨

前年同様事業の中止、縮小が相次ぎ支出が大幅に減少したため、公益事業が 250 百万円の黒字となった。この黒字はコロナ禍でも収入は堅調だった一方で支出は事業の中止・縮小などで減少した結果である。2022 年度の予算書では公益事業の赤字を 235 百万円とし、特定費用準備資金を 700 百万円積むなどして、2022 年度末には黒字を一掃する予定である。

3. 遊休財産額が公益目的事業の額を超えていないこと

→公益法人が公益事業に必要な額以上の財産を保有する必要がないとの趣旨

公益目的以外の保有財産 200 百万円は公益事業に必要な額 1,583 百万円以下であり、基準を満たしている。

2 つ目の、監査法人からも指摘があった収支相償の点については、「現状は黒字が解消していないという建付けだが、解消する施策を打っている」ということを説明する。この施策は後の議題にある「特定費用準備資金の積み立て」を考えている。正味財産については 2016 年度あたりから増加傾向である。本来は増えればいいというものではなく、公益事業に使って回していかなければならないというものである。「正味財産増減計算書内訳表」のうち、「公益目的事業会計」列の「評価損益等調整前当期経常増減額」が公益事業の黒字となっている。

●定時および臨時評議員会の開催及び目的事項について

■定時評議員会の目的事項等について

2022 年度定時評議員会を次の日時に開催するものとし、その目的事項（議題）として、以下の決議事項 1 件、報告事項 2 件とすることを提案する。

1. 日 時： 2022 年 6 月 17 日（金）13：00～15：00

2. 場 所： ワイム貸会議室 新宿西口 ROOM A+B

3. 決議事項

(1) 第 12 期（2021 年度）計算書類等の承認の件

第 12 期 2021 年 4 月 1 日から 2022 年 3 月 31 日までの計算書類（貸借対照表、正味財産増減計算書、貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書、財産目録）の承認を受ける件

4. 報告事項

(1) 第 12 期（2021 年度）事業報告の件

(2) 評議員の任期満了について

■臨時評議員会の目的事項等について

2022 年度臨時評議員会を次の日時に開催するものとし、その目的事項（議題）として、以下の決議事項 1 件、報告事項 3 件とすることを提案する。

1. 日 時： 2022 年 6 月 17 日（金）15：30～17：00

2. 場 所： ワイム貸会議室 新宿西口 ROOM A+B

3. 決議事項

(1) 評議員会議長の選定について

4. 報告事項

(1) 評議員の役割とこれまでの活動報告について

(2) JVA の財務状況について（新任評議員に向けた説明）

- ・ 第 12 期（2021 年度）決算および第 13 期（2022 年度）予算について

(3) JVA の事業内容について（新評議員に向けた説明）

- ・ 第 12 期（2021 年度）事業報告および第 13 期（2022 年度）事業計画について

●2022 年度の役員報酬について

非常勤役員手当と業務執行理事の報酬については前年とおりの金額で承認された。

●特定費用準備資金の積み立てについて

（提案理由）

公益認定法でいう以下の財務 3 基準のうち②収支相償基準を 2020 年度において満たしておらず（126 百万円の黒字）、2021 年度の事業の赤字にて解消する計画を報告していた。

収支相償基準とは「公益事業は黒字を出してはいけない。黒字の場合には早急に黒字を解消する施策が求められる」というもの。

【財務 3 基準】

- ① 公益目的事業比率が 50%以上であること
- ② 公益目的事業が収支相償であること（公益事業が黒字ではないこと）
- ③ 遊休財産額が公益目的事業の額を超えていないこと

【2020 年度の黒字（126 百万円）の解消方法】

・ 2021 年度の公益事業の赤字（予算）で、黒字を解消する予定であったが、継続するコロナ禍で、支出は制限され、収入は底堅く推移したことで今年度の公益事業は黒字 250 百万円となり、解消できないばかりか黒字が拡大した。

2021 年度末の公益事業の黒字を解消するため、特定費用準備資金 700 百万円を積み立てることが承認された。

【7 億円積み立ての具体的な内容】

特定費用準備資金① 積立 200 百万円

- ・ 資金の名称：2028 ロサンゼルス・インドア積立金
- ・ 計画期間：2024（令和 6）年度～2027（令和 9）年度の 4 年間
- ・ 積立限度額：200 百万円 2022 年度の積立額—200 百万円

特定費用準備資金② 積立 100 百万円

- ・ 資金の名称：2028 ロサンゼルス・ビーチ強化積立金
- ・ 計画期間：2024（令和 6）年度～2027（令和 9）年度の 4 年間
- ・ 積立限度額：100 百万円 2022 年度の積立額—100 百万円

特定費用準備資金③ 追加積立 300 百万円

- ・ 資金の名称：国際大会開催積立金
- ・ 計画期間：2023（令和 5）年度～2024（令和 6）年度の 2 年間

- ・積立限度額：500百万円 2022年度の積立額—300百万円
(2019年度に既に200百万円を積み立て済みのため、合計は500百万円)

特定費用準備資金④ 追加積立 100百万円

- ・資金の名称：100周年記念事業積立金
- ・計画期間：2022（令和4）年度～2026（令和9）年度の5年間
- ・積立限度額：150百万円 2022年度の積立額—100百万円
(2017年度に既に50百万円を積み立て済みのため、合計は150百万円)

この結果、当期末（2022年度末）の特定費用準備資金の一覧予定は下表のとおり。

名称	既積立額	新規積立額	当期末残高
100周年記念事業積立金	50,000,000	100,000,000	150,000,000
2024パリ・インドア強化積立金	260,000,000	0	260,000,000
2028ロサンゼルス・インドア強化積立金	0	200,000,000	200,000,000
2024パリ・ビーチ強化積立金	130,000,000	0	130,000,000
2028ロサンゼルス・ビーチ強化積立金	0	100,000,000	100,000,000
国際大会開催積立金	200,000,000	300,000,000	500,000,000
合 計	640,000,000	700,000,000	1,340,000,000

ただし2024パリ五輪に向けた積立金はインドア、ビーチともに半分が今期取り崩しとなる。

<報告事項>

●2022年度第1四半期職務執行報告

法令及び理事会運営規程に基づき、2022年度第1四半期の職務執行報告が会長、業務執行理事、室長・本部長より行われた。主な報告内容は下記のとおり。

【川合会長／代表理事】

- ① JVA入社式(辞令交付・永年勤続表彰)
- ② 各種メディアからの取材対応
- ③ スポンサー・メディア各社への就任挨拶回り
- ④ (株)カプコンとのトップパートナー発表共同記者会見
- ⑤ 各種大会(Vリーグ・黒鷲旗・ジャパンツアー立飛・愛知県体ビーチ予選等)視察
- ⑥ バレーボールワールドとの会談
- ⑦ 日本トップリーグ連携機構会議出席

【村上事務局長／大会運営事業本部長】

- ① スポンサー・メディア各社への就任挨拶回り
- ② 宮城県蔵王町長・教育長・スポーツ振興課との打合せ
- ③ Vリーグ機構役員選考委員会出席
- ④ 黒鷲旗全日本男女選抜大会代表者会議出席
- ⑤ JOC NF 総合支援センター法務サポート説明会参加
- ⑥ スポーツ庁「部活動の地域移行」に関する説明とヒアリング
- ⑦ JSPO 評議員連絡協議会出席

【灰西業務執行理事／指導普及事業本部長・マーケティング事業開発本部長代行】

- ① 体罰・暴力等行為者の事実調査
- ② 公認コーチ認定講習会準備

- ③ ホットライン制度の検討
- ④ スポンサー・メディア各社挨拶回り
- ⑤ スポンサー契約作業
- ⑥ ジャパンビーチツアー立飛、スポンサー来場対応
- ⑦ 中期計画策定準備

【紀伊業務推進室長／ビーチバレーボール事業本部長代行】

- ① 新入職員研修対応・個人面談
- ② HPT 研究所伊藤所長との打合せ
- ③ 第1～3回評議員選定委員会出席
- ④ 渋谷労働基準監督署・36 協定届提出
- ⑤ 運営企画会議陪席
- ⑥ SGC 船山社長他面談・打合せ
- ⑦ 荒井商事・荒井社長訪問

【矢島ハイパフォーマンス事業本部長】

- ① Vリーグファイナル視察
- ② 各種大会視察(大学リーグ、黒鷲旗、高校各ブロック、東日本・西日本大学選手権)
- ③ JOC インテグリティチーム会議参加
- ④ NTC 専用コート照明改修会議参加
- ⑤ 男女代表チーム視察および両監督・スタッフとの面談
- ⑥ ハイパフォーマンスサポート事業説明会
- ⑦ 女子 U20 合宿視察

【川合庶ビーチバレーボール事業本部長】

- ① 国内大会視察(浜松)、静岡県協会専務理事挨拶
- ② 藤沢市スポーツ振興課、神奈川県協会挨拶
- ③ ジャパンツアー立飛大会テクニカルミーティング参加
- ④ 日本ビーチバレーボール連盟共同会議
- ⑤ オフィシャルサプライヤー契約関連
- ⑥ JOC アスナビ企業挨拶
- ⑦ 大洗町役場、茨城県協会挨拶、会場視察

●**功労者Ⅱ表彰報告**

○第13期(2022年度)第1回功労者Ⅱ表彰授賞者

・渋谷研一 北海道バレーボール協会 北海道バレーボール協会副会長

●**コンプライアンス委員会処分決定報告**

No.	氏名・年齢 都道府県 チーム名 役職	【JSP0 処分決定】 ・指導者資格 ・JSP0 ・指導者資格 ・処分決定	【JVA 処分(案)】 ・コンプライアンス委員会開催日 ・処分(案)	・コンプライアンス違反行為(概略)

1	北海道内中学生 女子バレーボール部監督	バレーボール コーチ1 資格停止6か月	2022年4月12日 資格停止24か月処分	暴言・体罰 行為
2	熊本県内高等学校 男子バレーボール部監督	バレーボール コーチ1 資格停止12か月	2022年4月12日 資格停止24か月処分	暴言・暴力 行為

●委員会委員の追加選任について

■2022年5月16日に開催された業務執行理事会にてビーチバレーボール事業本部・強化委員会委員5名が追加選任された。

相楽幸子、楠原千秋、福井美香、山本知寿、渥美善博

●今後の会議スケジュールについて

川合会長より資料のとおり今後の会議日程について報告された。

なお、3月に予算が確定したが、カプコンとのトップパートナー契約に伴い、補正予算を作成する。そのため補正予算決議のために直近に臨時理事会を開催する必要がある。

以上

発行：公益財団法人日本バレーボール協会
電話：03-5786-2100 FAX：03-5786-2109

発行人：業務執行理事 兼 事務局長 村上成司
E-mail：generalaffairs@jva.or.jp